

など、これらも含め11項目の取り組みを進める。

望ましい部活動の環境を整えるという観点から、本年1月に「新得町部活動の在り方に関する方針」を策定、適切な運営のための体制整備や休養日の設定など、合理的かつ効率的、効果的な組織体制の運営を目指している。

教育関係団体の在り方について検討し、効率的な組織体制とするため、組織の統廃合（土曜授業の廃止等）教職員の負担軽減に努める。

**問 観光振興の取り組み強化を！**

**答** 狩勝園地、今ある資源を活用し、継続して環境整備する

本町は豊かな観光資源に恵まれている。今日インバウンド

などで十勝への観光客の入り込み客が増加し、新得町へも相当数の来客がある。観光施設のさらなる充実が必要である。2点について伺う。

①狩勝高原園地再整備計画の見直しも含めた具体的な整備の推進は

②トムラウシ地域の「ジオパーク構想」の取り組みも含めた観光振興策は

**浜田町長**

①町の玄関口としてリゾート地や市街地への誘導につながることから重要な観光拠点と捉えている。

平成23年に「基本計画」策定、園地周辺における資源の磨き上げ、ネットワーキングづくり、町民の意

見反映を目的に検証や方向性の確認を行ってきた。

平成27年に整備の全体像を具体化する中で、有料観光ガーデン化に向けた持続可能な園地の実施設計、平成29年に現地説明会などを実施、駐車場、トイレ整備を実施してきた。

今後は今の資源を活用した園地の魅力づくりを継続、庭園植物の試験的な植栽を実施し、継続整備に取り組む。

②「ジオパーク構想」（地球科学的価値を持つ地形や地質の遺産価値を理解し保全し自然に親しむための構想）については、トムラウシ地域の自然や遺産を学び、活かしながら観光や地域活性化につながるものとして今後研究する。

**問 産業振興基本条例に基づいたさらなる産業振興を！**

**答** 今まで以上に実りある条例となるよう努力したい



佐藤幹也議員

平成27年12月に、産業振興基本条例が施行され、3年余りたつが、この条例が機能しているとは思

わない。

昨年10月に産業文教常任委員会において、別海町を訪問し、中小企業振興基本条例を学んだ。

同町の中小企業検討会議は、年4回から5回開催され、施策の協議や検討だけではなく、行動指針策定等の役割まで担っている。

本町の産業振興検討会議は、年1回しか開催されていない。施策や予算に反映させる会議や施策に対する反省会議等、会議の回数を増やし、本町独自の方策により、産業振興基本条例を機能させ、官民一体となつて取り組み、より一層の産業振興を図るべきではないか。

**浜田町長**

この産業振興基本

条例は、どういうものかと考えたときに、時間の経過の中で、見直すものは見直し、今後いろいろなことを整理しながら、実りある産業振興基本条例を作っていくたい。

1次、2次、3次の産業を、産業別に具体的な政策を議論しなければならぬが、横の連携も必要。個別の案件を広げるための立ち位置で、産業振興検討会議があるとしたら、まだまだ見直す必要があるのでは、対応したい。

地域の産業をどうつくっていくか、今あるものをどう大きくしていくかは大変重要であり、そういった観点からも、この条例が今まで以上に実りある条例になるように努力していきたい。